

## 地域福祉計画の最終評価について（案）

※評価 A：目標をほぼ達成した B：目標を50%程度達成した C：目標をほとんど達成できなかった D：目標達成に取り組むことができなかった

目標／施策の方向性	目標達成のために実施した主な事業	事業の成果 (計画策定時からの変化)	目標の達成度合い	
			評価	コメント・課題等
1 福祉・健康増進体制の充実				
障がいのある人の自立支援				
●福祉サービス利用の相談支援体制充実	指定特定相談支援事業者による相談事業	H21.6 新潟市委託相談支援事業者（あると）を開設 H24.4 新潟市指定特定相談支援事業者（あると）を開設 心身の状況、家庭環境、サービス利用の意向を確認し、丁寧に相談に応じることができた。 相談実績 H21 222件 H22 825件 H23 775件 H24 738件 H25 880件 H26 376件(4月～9月)	A	H26.10.1基幹型相談支援センターが開設し、相談事業は移行したが、サービス利用計画案・計画の作成やモニタリングの実施を行う民間相談事業者は不足している状態である。
●心の健康づくりとボランティアの育成	心の健康づくり講座	・心の健康づくり講座運営委員会を設置し、講座の内容等について、より効果的な実施方法について検討してきた。H23年度より2年1クールでの開催に変更し、1年目は意識啓発、2年目は意見交換や施設見学など実践的な内容とした。H23・24年度5回コース、H25・26年度5回コース。 ・精神障がいの居場所「レストランパル」と生きがいデイ参加者との交流が行われている。心の健康づくり講座では、2年目となるH26年度で交流会を実施。終了後のボランティア活動に繋げた。	A	心の健康づくり講座の内容が充実し、講演会には多くの参加があるが、ボランティアとしての活動につながる事が難しく、今後も支援が必要である。
●障がい者団体情報の地域発信と地域との交流	・南区ふれあいスポーツ大会の開催 ・クリスマスお楽しみ会の開催 ・精神保健福祉フェスタの開催	・障がい者3団体の共同事業においては、レクリエーション協会、地区社協、地域のボランティアなど関係団体の協力を得て地域交流の場として開催した。 ・精神保健福祉ボランティアあけぼのが運営委員会を設け、フェスタを開催し、精神保健福祉についての啓発を図った。H23年度より開催し、H25年度は第3弾として実施した。	A	運営の課題や参加者のニーズから内容を検証し、定着を目指した方策や仕組み作りを行い、開催支援を行った。

※評価 A：目標をほぼ達成した B：目標を50%程度達成した C：目標をほとんど達成できなかった D：目標達成に取り組むことができなかった

目標／施策の方向性	目標達成のために実施した主な事業	事業の成果 (計画策定時からの変化)	目標の達成度合い	
			評価	コメント・課題等
●生活課題の早期発見	南区障がい者地域自立支援協議会	相談支援事業者、福祉事業者、教育機関、医療等関係する分野の関係者で、支援に特に検討を要する事例への対応など、適切な福祉サービスについて協議し、関係団体との連携が深まった。 年4回の開催（5月、8月、11月、2月）	A	関係団体と支援に特に検討を要する事例の情報の交換により、事例の共有を図り、スムーズな適切な対応が可能となった。
お年寄りと介護者の生活支援				
●情報の共有とネットワークづくり	・高齢者ケア会議の実施 ・地域包括支援センターの充実	・高齢者ケア会議・・・2回/年 ⇒関係団体との情報共有の場のみならず区の課題抽出、解決機能を有する場への転換を図った。 ・地域包括支援センター・・・継続的な関係機関との打ち合わせ会議等により、各圏域ごとに優先的に取り組むべきことが見えてきた。	A	多くの関係機関と関わることによりお互いの顔が見え情報の共有がしやすくなってきた。この活動を引き続き継続し、今後は共有だけでなく、地域包括ケアシステム構築に向け協力して活動していく必要がある。
●高齢者の健康管理と介護予防の推進	・高齢者健康相談「お達者会」 ・転倒予防教室、転倒予防教室終了後の自主サークル支援 ・高齢者健康づくり講座（特色ある区づくり予算：H24～）	・高齢者健康相談会は、健康管理、介護予防を目的に40～50会場で毎年実施し、健康づくり、認知症予防など統一テーマを決めて実施した。H24年度44回547人参加 H25年度26回331人参加 H26年度28回457人参加 ・転倒予防教室から自主グループとなり12グループが活動中で、保健師・作業療法士が各グループに年1～2回の支援を行った。 ・平成25年度の講座終了後、参加者がウォーキングサークルを結成し、自主的な活動が見え始めた。平成26年度は3地区3会場で実施。 【講座参加人数】 H24：高齢者37人、食推・運推26人 H25：前年度からの継続27人、新規13人 H26：3地区合計128人	A	・健康相談会等は、計画とおりに実施することができている。高齢者の健康管理の一つとしての特定健診、後期高齢者健診の受診率の向上を図るためには、さらに勧奨等取り組みが必要な状況である。 ・住民による自主的な運動の取り組みを区全体に広げていく必要がある。

※評価 A：目標をほぼ達成した B：目標を50%程度達成した C：目標をほとんど達成できなかった D：目標達成に取り組むことができなかった

目標／施策の方向性	目標達成のために実施した主な事業	事業の成果 (計画策定時からの変化)	目標の達成度合い	
			評価	コメント・課題等
●認知症予防と対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症サポーター養成講座の開催</li> <li>キャラバンメイト連絡会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サポーター養成講座 H22 300人 H23 319人 H24 348人 H25 416人 H26 378人</li> <li>キャラバンメイト連絡会 H21～H26 合計4回</li> <li>認知症家族介護者のつどい H24～H26 合計12回</li> </ul> 上記のとおり認知症理解に関する活動を継続的に実践している。	B	講座の開催はコンスタントに実施しているが、一般市民に認知症への理解浸透は程遠い。講座を開催できるキャラバンメイトの活動は、実際のところ地域包括支援センターに依存しており、その他のキャラバンメイトが実際に活動できるように本課とともに働きかけていく必要がある。
●地区保健会活動の推進	地区保健会事業：健診受診勧奨、学習会、健康づくり講演会、元気アップ講座、地区自主活動	各地区で講演会や講座等を実施したほか、自治会・コミ協と協働で地区自主事業の開催や自治会長との合同学習会など関係組織と連携して実施することができた。保健会への支援で、若い世代への働きかけができていたことが、特定健診の若年層の受診率が高い一因と考えられる。 [参考] 25年度南区特定健診受診率 ※ ( ) 内は全市 全年齢平均 31.15% (31.30%) 45～49歳 13.05% (9.37%) 50～54歳 17.13% (12.95%) 55～59歳 21.72% (16.97%)	B	地域の関係組織とより連携を深め、保健会がより効果的に活動できるような体制が求められている。
●世代間交流事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>敬老会の開催</li> <li>地域の祭りや保育園での高齢者等との交流</li> <li>保育園児の地域の茶の間への訪問活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区内12地区14会場で実施し、保育園児や地域の団体との交流が図られた。</li> <li>地域の祭りでの保育園児との交流は、地域の伝統として継続された。保育園での祖父母参観や実りをいただく日への招待など世代間の交流を推進した。</li> <li>保育園児の地域の茶の間への訪問活動を積極的に推進した。</li> </ul> H23：6回 H24：7回 H25：12回 H26：11回	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>敬老会は年々参加者が減少傾向にあり、実施方法や内容を検討する必要がある。</li> <li>敬老会や地域の祭りなどにおける交流活動、保育園での交流は、地域行事・保育園行事として定着している。</li> <li>保育園児の地域の茶の間への訪問は、活動時間が合わない、茶の間の会場が遠いなどの課題がある。</li> </ul>

※評価 A：目標をほぼ達成した B：目標を50%程度達成した C：目標をほとんど達成できなかった D：目標達成に取り組むことができなかった

目標／施策の方向性	目標達成のために実施した主な事業	事業の成果 (計画策定時からの変化)	目標の達成度合い	
			評価	コメント・課題等
●老人クラブへの参加促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>老人クラブ助成事業</li> <li>区役所だより「みなみ風」に会員募集記事を掲載(H25.10.6号)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登録団体数は減少傾向であるが、助成により、クラブの活動の活性化が図られている。</li> <li>H22：42件 2,351,880円</li> <li>H23：40件 2,217,600円</li> <li>H24：38件 2,082,240円</li> <li>H25：38件 2,038,320円</li> <li>H26：37件 1,962,360円</li> <li>区役所だよりの記事が会員の増加に結び付いたかは確認できなかった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織の運営・活動等の支援を行い、老人クラブ会員増に向けた取り組みが必要</li> <li>今計画期間で未着手の「ちょこボラ」登録制度について、今後取り組みを検討したい。</li> <li>会員募集記事広報掲載については、老人クラブ事務局の掲載依頼に協力する形で継続していく。</li> </ul>
子どもの健やかな育ちと子育て支援				
●子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援センター，児童館における相談活動</li> <li>公立保育園における園解放事業</li> <li>ファミリーサポートセンター</li> <li>母子保健事業，家庭訪問等による子育て支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援センターや児童館での相談活動は継続して実施された。</li> <li>公立保育園における園解放事業も定期的に行われた。</li> <li>ファミリーサポートセンターは、全市に拡大され、活動範囲が広がった。</li> <li>各種母子保健事業や家庭訪問等で子育て支援を行った。各種事業を通して、継続的な関わりができています。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き子育て支援センターでの相談活動などを継続するとともに、児童館における子育て支援機能の周知を図る。</li> <li>保育園の園解放事業を継続し、周知に努めながら未就園児への支援を図る。</li> <li>ファミリーサポートセンターは、提供会員の増加を図ることが課題となっている。</li> <li>今後も、集団および個別への支援の継続が必要。</li> </ul>
●子育て応援ボランティアの育成と親のニーズ	「地域で子育て」を応援 (特色ある区づくり予算：H24～H26)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で「子育て広場」を開設できる子育て支援リーダーを14名育成し、定期的に開設している。H25：9回 H26：20回</li> <li>NPプログラム（ノーバディーズ・パーフェクト：完璧な親なんていない 親支援プログラム）を実施できるファシリテーター（プログラムの進行を担う人）を12人養成し、実践活動を実施している。H25：2回，23人 H26：2回，19人</li> </ul>	A	引き続き身近な地域での子育て支援を推進し、子育て支援リーダーのさらなる育成を図っていく。
●子育て情報の発信	子育て応援冊子作成事業 (特色ある区づくり予算：H22～H25)	南区版子育て応援冊子を発行し、子育て情報の発信に努めた。 H22：第1版1,300部発行 H23：第2版3,000部発行 H24：第2版500部増刷 H25：第2版改訂版2,000部発行	A	情報を常に更新できるよう頻繁に改訂版を発行する必要があるが、区づくり予算は原則3年限定であり、予算の確保に課題がある。

※評価 A：目標をほぼ達成した B：目標を50%程度達成した C：目標をほとんど達成できなかった D：目標達成に取り組むことができなかった

目標／施策の方向性	目標達成のために実施した主な事業	事業の成果 (計画策定時からの変化)	目標の達成度合い	
			評価	コメント・課題等
<b>2 拠点施設の活用</b>				
(1) [仮称] 南区保健福祉センターの運営・活用	南区白根健康福祉センター 建設・管理運営事業	平成21・22年度 基本設計・実施設計 平成23・24年度 建設工事 平成25年1月 開館 「わいわいカフェ」 H24 1,226人 H25 3,421人 H26 2,677人  「みんなの茶の間」 H25 1,863人 H26 1,137人	A	「基本構想書」に計画されたハード面の機能はほぼ実現できた。 今後は、利用方法など利用者の意見を取り入れる仕組みづくりが必要
(2) 子どもたちの見守り	合併建設計画「児童センター建設事業」「味方小型児童館建設事業」：H17～H26	合併建設計画に基づき、白根児童センター、味方児童館、白根北児童館及び白根南児童館を建設し、子どもの居場所づくりができた。 【利用者数】 白根児童センター：277,441人 (H19.9～H27.3) 味方児童館：65,100人 (H21.4～H27.3) 白根北児童館：52,190人 (H24.2～H27.3) 白根南児童館 (H27.4利用開始)	A	子どもの居場所や健全育成の拠点づくりができたので、地域と一体となって充実した施設運営が求められる。
(3) 保育園の充実	合併建設計画「南部地域保育所建設事業」：H21～H23	多様な保育サービスが提供できる保育環境の整備を図るとともに、受入月齢の拡大や土曜日の保育時間の延長を図った。	A	0～1歳児の保育ニーズが高まる中で、乳児保育の環境整備を図る必要がある。
(4) 子育て支援センター	合併建設計画「南部地域保育所建設事業」：H21～H23	・白根そよ風保育園に子育て支援センターを併設し、南部地域にも子育て支援機能が整備された。 ・子育て支援センター利用実績 南区内4か所の合計 H26：27,308人 ・公立の子育て支援センターを空き施設に移転し、子育て支援環境の整備を図った。	A	北部、中央部、南部にそれぞれ私立の子育て支援センターが設置され、中央部には療育機能のある公立の子育て支援センターと併せて子育て支援の環境整備が整った。

※評価 A：目標をほぼ達成した B：目標を50%程度達成した C：目標をほとんど達成できなかった D：目標達成に取り組むことができなかった

目標／施策の方向性	目標達成のために実施した主な事業	事業の成果 (計画策定時からの変化)	目標の達成度合い	
			評価	コメント・課題等
<b>3 地域活動への支援</b>				
(1) 災害時要援護者支援への体制を整備します	災害時要援護者名簿登録制度の活用	民生委員等の協力により、周知が図られた。 H26登録者数1,335人 自主防災組織の増加 H21:18組織→H26:22組織へ H26自主防災組織結成率(自治会数比87.5%世帯数比90.9%)	A	制度の周知も概ね徹底されたが、災害時等における連絡体制の整備が今後急がれる。
(2) 「地域の茶の間」を支えます	「住み慣れた地域でみんなで暮らせる南区づくり」事業 (特色ある区づくり予算：H21～H23)	地域の茶の間への経費補助を3年間で31件実施した結果、茶の間の開催数が51か所(H21)から61か所(H24)に増加した。27.3月末現在社協が把握している開設数は、高齢者54か所、子育て8か所	A	区内のほとんどの地区で高齢者の居場所ができた。今後は、茶の間の開催維持や多世代の住民との交流の場としての活用が求められる。担い手の高齢化が進み活動の維持ができなくなる懸念がある。
(3) 地域ボランティア活動を支えます	中学生ボランティア活動への助成と育成 (特色ある区づくり予算：H21～H23)	区内各中学校で実施されているボランティア活動に係る経費(実費)を助成したことで、一層の理解が深まった。 H21:6校中5校 214,399円 H22:6校中5校 142,414円 H23:6校中5校 303,469円 (主な活動内容:福祉施設への訪問,高齢者疑似体験,福祉ボランティア学習,手話・点字講習会)	B	ボランティア活動の発信についての取り組みが弱かった。また、今後地域包括ケアシステムを構築する必要性が高まる中で、地域の見守りボランティアの育成が急がれる。地域と中学校が連携できる活動の可能性について検討が必要
<b>4 福祉ネットワークづくり</b>				
●高齢者を支えるネットワーク	・高齢者ケア会議の開催 ・圏域ケア会議の開催 ・高齢者等あんしん見守り活動 動事業の実施	・高齢者ケア会議:2回/年 ・圏域ケア会議:5回/年 各包括1～2回 ・高齢者の見守り:2回/年 夏期,冬期ケア会議を、関係者との情報共有,区の課題抽出,解決機能を有する場への転換を図った。保健師等を中心に地域包括支援センターと協働で保健指導を切り口とした見守り訪問を実施し、支援体制の充実を図った。	A	見守り訪問活動をとおり、関係者が共同で地域を見守る活動計画の作成,実践を経験した。今後はネットワーク拡大のために、いかに地域との活動と連動していくか検討する必要がある。

※評価 A：目標をほぼ達成した B：目標を50%程度達成した C：目標をほとんど達成できなかった D：目標達成に取り組むことができなかった

目標／施策の方向性	目標達成のために実施した主な事業	事業の成果 (計画策定時からの変化)	目標の達成度合い	
			評価	コメント・課題等
●子育て支援のネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>南区児童虐待予防連絡会の開催</li> <li>子育て支援機関の情報交換会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童虐待防止や対応策などの研修を通じて、早期発見、早期介入し、関係機関が連携して対応できるよう努めた。</li> <li>子育て支援センターや児童館職員による定期的な情報交換を行い、ネットワークづくりを図った。</li> </ul>	B	子育て中の保護者の仲間づくりを支援し、子育てボランティアや地域とのつながりを深め、地域ぐるみの子育て支援のネットワークづくりが求められる。
●南区ボランティアネットワーク	南区白根健康福祉センター建設・管理運営事業	センター内にボランティア団体の活動の場としてボランティアルームを設置した。 利用者数 H24 39人 H25 286人 H26 268人	C	ボランティアの連絡調整は、ボランティア・市民活動センターで行われている。ボランティアルームが、活動拠点となるための問題点解消の検討が必要
●精神障がい者を支えるネットワーク	心の健康づくり講座，ボランティア情報交換会の開催	心の健康づくり講座と連動して、関係機関とボランティアの情報交換や意見交換を実施するなど、ネットワークづくりをすすめた。	A	ボランティアへの関心を高め、活動につながるよう、講座の継続や情報交換の機会を提案していく必要がある。
●障がいのある人たちの活動を活発にするネットワーク	障がい者の社会参加の促進と地域住民との交流事業	南区白根健康福祉センター内の喫茶コーナー「わいわいカフェ」の開設により地域住民との交流が深まった。(H25.1～) 来客数 H24 1,226人 H25 3,421人 H26 2,697人	A	障がい者の就業意欲の向上，社会参加の促進，地域住民との交流の場として，障がい者に対する理解が深められるよう発信していく必要がある。
●障がいのある人を支えるネットワーク	南区障がい者地域自立支援協議会	相談支援事業者，福祉事業者，教育機関，医療等関係する分野の関係者で，支援に特に検討を要する事例への対応など，適切な福祉サービスについて協議し，関係団体との連携が深まった。 年4回の開催（5月，8月，11月，2月）	A	地域課題についてグループワークで解決策を討議し，提案や要望を行った。

※評価 A：目標をほぼ達成した B：目標を50%程度達成した C：目標をほとんど達成できなかった D：目標達成に取り組むことができなかった

目標／施策の方向性	目標達成のために実施した主な事業	事業の成果 (計画策定時からの変化)	目標の達成度合い	
			評価	コメント・課題等
<b>5 人材の育成</b>				
①地域福祉活動に参加する人たちの育成	中学生ボランティア活動への助成と育成 (特色ある区づくり予算： H21～H23)	区内の中学生を対象としたボランティア研修会に3年間で延べ80名が参加し、福祉に対する意識向上に役立った。	B	特に若い世代に対するボランティア・福祉情報提供の方法に検討の余地がある。
②活動の中心となるリーダーの養成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「住み慣れた地域でみんなで暮らせる南区づくり」事業 (特色ある区づくり予算： H21～H23)</li> <li>・「地域で子育て」を応援 (特色ある区づくり予算： H24～H26)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茶の間ボランティア養成講座（基礎編・応用編）に3年間で延べ約150名が参加し、それぞれの団体で成果を発揮している。</li> <li>・地域で「子育て広場」を開設できる子育て支援リーダーを14名育成し、定期的を開設している。</li> <li>・NPプログラムを実施できるファシリテーターを12名養成し、実践活動を実施している。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア・市民活動センターで「きっかけづくり講座」を開催している。</li> <li>・ボランティア団体同士の情報交換の場を設け、更なる活動の広がりを推進することが必要。</li> <li>・引き続き身近な地域での子育て支援を推進し、子育て支援リーダーのさらなる育成を図っていく。</li> </ul>
③福祉活動をやってみたい人、やっている人の活動拠点の整備、情報収集と発信の場の整備	南区白根健康福祉センター 建設・管理運営事業	センター内にボランティア団体の活動の場としてボランティアルームを設置した。 利用者数 H24 39人 H25 286人 H26 268人	B	ボランティア・市民活動センターで「きっかけづくり講座」を開催している。 ボランティアルームが、活動拠点となるための問題点解消の検討が必要